

リレートーク「ライチョウ保全の最前線」

コーディネーター 福士秀人（岐阜大学応用生物科学部）



リレートーク

○司会 それでは皆様，これよりは，ライチョウ保全の最前線と題しまして，リレートークを進めてまいります。

本日のコーディネーターは，岐阜大学応用生物科学部福士秀人教授でございます。

それでは，ここからの進行につきましては，福士先生にお任せいたします。福士先生，よろしく願いいたします。

○福士 福士でございます。これから第一線で活躍している5名によるリレートークをさせていただきます。

まず初めに，なぜ私がこのようなコーディネーターをするかということに疑問を持っている方もいるかと思いますが，少しだけ時間をいただいて，私自身とライチョウの関わりをお話しさせていただきます。

プロフィールにも書いてありますが，1990年代，実はですね，岐阜大学獣医学科，現在は共同獣医学科になっていますが，最初に，今でいう科学研究費の基盤A，ほぼ学科全体をとって中部山岳地帯の生物に関する研究をしました。それ以前にはカモシカの研究があったのですが。その後，COEという文部省，文科省から非常に大きな予算をもらって，引き続き中部山岳地帯の調査をしておりました。その中で，環境評価が非常に大事だということがございましたので，私たちの研究室，当時，私は助教授でしたけれど，ライチョウを指標とし

て、先ほど楠田先生のお話にもありましたように、ライチョウを守ることは、自然環境全体を守ることで、ライチョウがどれくらい綺麗に暮らしているかが分かれば、環境がどんな風になっているか分かるということで、ライチョウの研究を始めたわけです。

私自身も、まだ若かったので、薬師岳で、麓から山開き前の薬師に、当時の東京農大ですとか、富山県の方ですとか、岐阜県の方とも一緒に登って、ほぼ一週間、寝泊りをしながら、毎日、山を歩いて生息調査をしつつ、雪の上にライチョウのウンコがあると、もうとにかく取りに來いということで、100メートル、200メートル走り回りながら、ライチョウの糞を集めて、終わった後は、研究室に戻ってというように進めてまいりました。

その後も、また長野県とか、様々な方から声を聞いていただいて、ライチョウの調査をしていたということでございます。その成果については、先ほど楠田先生がご紹介いただいた本に少し、拙文ではありますが書いてありますので、読んでいただけたらと思います。

そういった関わりもありましたので、このような機会をいただいたということでもあります。あと、もうひとつ、つい数年前までは、私、図書館長をしておりました。その時に、楠田先生からご相談があつて、ライチョウの展示会をしたい、ということがあつたんです。ですから、今、展示しているような事、同じように展示をさせていただきました。その時のエピソードをひとつ。岐阜大学には現在、保育園ということで小さなお子さんたちを日中預かっているところがあるのですけれど、午前中、子供たちが楽しそうに散歩をします。そのコースの中に、当時の開催していたライチョウ展が入っていたのですね。その時に、子供たちの一人が夕方、お母さんを連れて図書館に来て、すごい楽しそうにライチョウってこんなんだよっていう風にお母さんに説明したというようなエピソードを図書館からお聞きしました。ですので、先ほど楠田先生がお話しされたように、一人が一人に伝えるということで、大きな輪になっていければいいなという風に思います。ですので、これからのリレートークも皆さんと、また、仲間の方々の情報共有をしていただいて、ライチョウひいては自然環境というような方面に向けて、良い一歩を踏み出せればと思いますので、よろしく願いいたします。これから以降は座って進めさせていただきます。

それでは、初めに、生息地からということで、乗鞍岳のライチョウ、水田様、よろしく願いいたします。